

論 文 要 旨

2022 年 9 月 2 日

※報告番号	第 号	氏 名	イネステーラー 章子
<p>主論文題名</p> <p>理工系グローバル経営人材を育成するフレームワーク策定のための調査と評価分析</p>			
<p>内容の要旨</p> <p>グローバル化やデジタル化が加速する現代において理工系人材の需要が増し、それに伴い理工系の経営人材育成が企業にとって不可欠となっている。こうした状況下において、理工系人材のキャリア開発促進と中長期的に活躍できる理工系グローバル経営人材育成は、喫緊の課題となっている。本研究では、世界トップレベルの大学の Executive Education 調査と関係者へのヒヤリングを実施し、グローバル経営人材教育実態を調査分析することにより解明した。さらに、日本企業の経営人材候補となっている 181 名の理工系人材へのコンピテンシー測定を行い、分析結果をもとに理工系人材を経営人材として育成するための具体的な方策を探索した。グローバルリーダー育成を実践する Executive Education の重要性が顕在化しているが、こうした教育に関する研究は少ない。本研究では、Executive Education におけるグローバル経営人材育成の実態を質的に、また定量分析することにより、環境変化にアジャイルに対峙可能なグローバル経営人材をどのように育成するのかといった教育の外的要因（参加者・講師・学習効率・学習環境等）および内的要因（教育目的、教育アプローチ等）の実態を探索することを第一の研究目的とした。Executive Education 運営校の大学の公開情報を調査し、公開情報の質的・量的分析を行うことにより、参加者・講師・学習効率・学習環境等の外的要因を抽出した。また、世界の大学の Executive Education 関係者ヒヤリング調査を実施し、「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」と呼ばれる方法に対応した KH Coder を用いて量的分析をすることにより、理工系グローバル経営人材を育成するためのフレームワーク策定のための内的要因、すなわち、教育対象者、教育目的、教育アプローチ、理工系経営人材のキャリア開発とアプローチ等を客観的に抽出した。その結果として、Executive Education におけるグローバル経営人材教育の外的要因として 5 項目の外的要因、「参加者多様性」「講師多様性」「新興国」「学習効果・効率」「学習環境」が重要であること、内的要因として 5 つの主な教育目的「ネットワーク型リーダーシップ」、「問題解決力」、「異文化理解力」、「先端テクノロジー」および「リベラルアーツ」や多様な教育アプローチ、エンジニアの開発課題が中心となっていることが明らかとなった。次に、東証一部上場企業に属する情報系およびものづくり系エンジニアを中心とした理工系人材のコンピテンシーを、汎用的能力評価試験（PROG テスト）を用いて計測することにより、理工系人材のキャリア開発のコンピテンシー課題を客観的に抽出することを第二の研究目的とした。この結果から、理工系人材のコンピテンシー開発の課題として取り組むべき主なものは、対課題基礎力の「計画立案力」・「実践力」、および、対人基礎力の「統率力」であることが分かった。第三の目的として、第一の研究目的から抽出されたグローバル経営人材育成のための外的要因（参加者・講師・学習効率・学習環境等）および内的要因（教育目的、教育アプローチ等）をもとに、第二の研究目的から抽出された理工系人材のキャリア開発のコンピテンシー課題や影響要因に対応した理工系グローバル経営人材を育成するためのフレームワークを策定し提案した。理工系人材の中長期的なキャリア開発という観点から、アカデミア主体の海外大学連携による理工系グローバル経営人材を育成するためのプログラム設計の基盤となるフレームワークとして策定した。このフレームワークには、欧米ビジネススクールが運営する非学位取得型の Executive Education の独自の調査から、教育目的、教育内容、教育アプローチ、学習環境等の内的・外的要因の多くを学び新たなプログラムの設計に取り入れた。グローバルな教育市場において日本の大学の非学位の社会人</p>			

教育は顕在化していない中，提案した社会人教育のフレームワークでは，欧米型からの転換を図り，日本人を始めとするアジア圏の理工系人材を主な対象者として捉えアジア圏における国際的多様性を提案し国際的に開かれた教育プログラムとした．さらに，独自の理工系人材コンピテンシー調査から導いたキャリア開発課題に焦点を当て，理工系人材がグローバルに，且つ、中長期的に活躍できる新たな教育基盤を提案するものである．

※印欄記入不要